

30年第3回9月 喬木村議会定例会総括

平成30年10月2日
議員全員協議会

総括する項目は以下のとおり意見集約することで多くの意見を参考に次に活かせるものと考えます。

■ 9月定例会の総括

【会期・日程・議会運営について】

【下岡幸文議長】

9月議会は決算審議中心の議会で、十分な審査時間を必要とする。その為、一般質問を会期前半に行ったことで、会期後半は付託審査に集中できてよかったと思う。ただ、9月は敬老会始め土日に行事が多い。18日前後の会期では会議日程が窮屈になった。兼業議員のために開会、閉会の夜間開催と常任委員会の昼間開催を検討してもいいのではないか。

【小池豊副議長】

現在の日程で良い。

【下平貢議員】

決算議会としては、今回の運営は良かった。但し、一般質問の通告期間が少々短かったと思う。予算決算委員会の3日目、本会議最終日については夜間開催の可能性が出てきたと考える。

【後藤澄壽議員】

9月20日急に議運を開く事態になったことは、今後同様な事態にならないように議会としても、チェック機能を強めたい。

【佐藤文彦議員】

今定例会は、予算決算まで時間もあり、また常任委員会も決算の審議から抽出された課題についての討議ができ、内容的にも良かったと感じる。予算決算の3日目と、閉会日の日程について、時間的（夜間開催や午後からの開催など）な検討もして頂きたい。

一般質問通告締切りから、一般質問の当日までの期間は短くなかったか？職員の皆さんの負担が無かったかをお聞きする必要がある。

【後藤章人議員】

一般質問締め切りが早く、9月下旬からの議会関係の日程の中質問をまとめ上げるのに、割と厳しさを感じた。しかし、全体の日程を見た時、決算議会といわれる今定例会の日程としてはよかったと思う。なぜなら、予算決算委までの日程が長く、前回の定例会同様議案を読み込むのには助かった。やはり委員会は後半がいい。

【東原靖雄議員】

日程に於いて一般質問と予算決算常任委員会との日が少ない、資料は事前に配布されたがどちらも重要であるため余裕をもってもらいたい。

【櫻井登議員】

会期は、原則通りの「9月4日から21日」の開会ということに特記すべきことはありません。日程では、「一般質問を前半」に、「予算決算委員会を後半」に設定されたことは、正解でした。少しでも時間づくりができたことは良かったです。今後の定例会も、同様がいいと考えます。

【木下温司議員】

会期は現在の定例会方式では、特に問題がなかったと考える。日程については予算審議の関係でできるだけ、事務事業評価シートの内容を確認する時間を取るため、予算決算常任委員会を後半に持ってきたが、委員会としては、最終日の報告までタイトであった。

議会運営について：今回は各委員会付託議案がなかったが、その面、来年度への政策提言に繋がる審議の時間が取れた。(今回の審議過程、趣旨についての理解は不足、今後改善し充実させていく。)

【一般質問について】

【下岡幸文議長】

ただ聞くだけの質問があった。事前に調査・研究し、内容把握の上、質問や提案をすると、聴きごたえがある質問になる。

【下平貢議員】

予算決算委員会の質疑で足り得る質問は残念だと考える。

【後藤澄壽議員】

せっかく傍聴者が来てくれたのだから、もっと多くの議員の質問があった方がよかったかと思う。

【佐藤文彦議員】

自分なりに一般質問の意味を理解し、今回も幾つか質問として取り上げ

たい題材はあったが、予算決算委員会で解決できると判断し、行わなかった。

【後藤章人議員】

今定例会の前に、いくつか大きな災害があった。それに対する見舞の挨拶は議長が代表して、冒頭で行うようにしたらどうか。前回、質問前の挨拶について、意見が出たが、今回は全体的に質問に入るのが早く内容が聞き取りやすかった。その内容については、個々の思いもあるだろうが、質問の進め方、形式には工夫が必要であると感じた。

【東原靖雄議員】

通告以外に関連質問事項あり、又議員の質問で無く村民の目線で聞けることが必要と思われる。

【中森高茂議員】

村長議会冒頭の挨拶後の提出あるいはその後の原稿に修正等を加えないと質問と答弁に違和感を感じる事がある。最低でも村長挨拶の翌日を提出期限にしてもらわないと、取り下げの状況も考えられる。提出した自分の質問概要に調整が必要となり、イメージしたものと変更をしての質問となりうる。

【櫻井登議員】

全質問が8件とは、少なすぎ。もっと、村政のニッチにも目を向けられてはどうか。少なすぎて、傍聴者にがっかりさせてしまったのではないか。

質問が、多岐にわたり出されることが良いと思う。

【福澤真理子議員】

前半にもってきて、審議を後半にしたのはよかった。早めに準備すればよいと思っていたが、やはり忙しかった。通告で、同じような質問が複数出ており、調整してやめて、他の質問に変えた。同じテーマでも内容を確認しあい、予定通り行うなどした。

【木下温司議員】

今議会は日曜日に設定したが、今回も質問者が少なく残念な結果でした。質問の内容について、何人か同じ質問が出されましたが、調整することができた。内容について、もう少し行政の現状を踏まえ、幅広い視野で質問することができればと感じる。

【昼神二三男議員】

答弁に対して、ダメ押しの要望やお願いは避けるべきであり、あくまで

も質問に徹するべきである。

【事前質問・事前の意見集約について】

【下岡幸文議長】

決算の事前質問は用語の意味や数値の確認に留めようとしたが、意味が分かりづらい質問があり、職員に迷惑をかけた。意見集約を行うことで、会議中の簡易な質問は減ったが、職員の事務作業は増えている。職員の労務に見合う活用ができていないか、議員は再考の必要がある。

【小池豊副議長】

事前質問については、村からの返答内容からいろいろ参考になります。

【下平貢議員】

審議を深めるためにも、今後も重要だと考える。チーム議会として、各々が少しずつでも項目を挙げることで、幅の広い、充実した内容につなぐことが出来るので、今後も続けて頂きたい。

【後藤澄壽議員】

限られた時間で議論を深める上で有効であった。ただし、「賛否」を問う必要はないのではないかと。

【佐藤文彦議員】

事前質問、意見集約（コメント）は、他の議員の意見や考えを知る上でも、また自分の事前準備の為に必要と思うが、賛否について全ての議案で必要かは検討の余地があると思う。

【後藤章人議員】

簡易な質問は事前に行い、その内容を共有し、委員化の効率よい運営を目指すものであるが、私個人的にはその質問を活用する機会が無く今回は必要性が感じられなかった。意見集約は、賛成・反対等自分の意見を構築していく上でかなり参考になり役だった。

【東原靖雄議員】

簡易な質問を設けて内容がわかり良かった。意見集約は事前に検討出来、後日委員会などに審議しやすかった

【中森高茂議員】

継続して頂きたい

【櫻井登議員】

他者の考え、意見も分り、また簡易な質問にも回答が示され、合理的と思う。「評価シート」活用の結果か、事前の質問が委員会の際に出ていなかったようだった。

【福澤眞理子議員】

自分にとっては膨大な量の資料で全般を突っ込むことは難しかったが何とか取り組んだ。やり足りなかった感はある。質問の箇所に記載すればよかったと反省したところ多し。(賛否は書けず、言い訳的に記載してしまった)

【木下温司議員】

今回は事前質問に対し再度質問し回答を頂いた方もいますが、質疑・回答があっても、回答を得たとして質疑しない方もいた。できるだけ質疑に対しては委員会にてお願いしたい。(審議の内容整理の関係)逆に、委員会質疑の中で、簡易な質問的な発言も見られた、例えば利用者数とかいう内容については事前質問で良い。

【昼神二三男議員】

予算・決算議会においては、時間的に余裕ある議案配布がないとボリューム上、十分な事前検討は難しい。

【事務事業評価シートを活用した予算決算委員会について】

【下岡幸文議長】

いままでの事業内容と決算額だけの審議よりは、事業を理解しチェックするうえで、事務事業評価シートは有用だと思う。今後は職員の評価だけでなく、議員も事業評価する事業を選択していきたい

【小池豊副議長】

費用のみでなく事業の成果、今後の課題、方向性を周知検討できて良い。

【下平貢議員】

ひとつひとつの数字に対して審議することも大切であるが、監査も経てきていることから、今回の様に、事業そのものに探求していくことの方が重要であるし、次に繋げていきやすいと考えるので次年度も今回の方法で良いと考える。但し、もう少し事業選抜を行い、重要案件を絞った方が良いと考える。

【後藤澄壽議員】

「成果」「課題」「今後の方針」が明確に分かって、質疑、討論をする上で役立った。ただし、「A、B」評価は、評価者によって、評価が違って来るような話があり、客観性の点で疑問を感じた。

【佐藤文彦議員】

初めての試みではあったが、事業の成果や今後の課題などが分かり、前回までは決算額に目が行きがちであったが、今後の方向性や必要性なども踏まえた審議ができ、課題に対する提言にも繋げられた。評価シートが配られてから事業抽出をするまでに時間がなかった。総合計画に照らし合わせた視点での審査を、抽出した全ての事業で見ることまでは時間的にも厳しい。

【後藤章人議員】

シートを見るまでは、どんなことになるのか不安があった。500ページを読み込むのは、大変な負担であり最後まで同じペース、同じ集中力を持って読むことは出来なかった。途中から目次を見て自分の関心のある事業ばかり拾ってしまった。項目を絞らないと無理があり、内容の無い審議になってしまう恐れがある。各事業の次年度に向けた村の考え方が捉えやすく、質問にも幅ができた。議員の考え方がよく分かったのではないかな。

【東原靖雄議員】

事業の成果、課題、評価され検討内容が理解できる、次年度の計画が見えて総合的に質問をすることが出来、事業シートはわかりやすかった。

【中森高茂議員】

どの様な形式でも良い

【櫻井登議員】

従前のわかりやすい決算書の形態から様変わりし、ボリュームも増して大変かと思ったが、質問点の抽出は「評価シート」の方が絞り込み易く次回以降も、「評価シート」活用を希望します。評価のA・B・Cは、粗すぎ。4～5段階の評価が丁寧だと思う。

【福澤真理子議員】

昨年一回経験しているが、昨年のことは夢中でよく覚えていない。今回の方法は、それぞれの事業について、推移、内容、事業費、成果、課題、評価、方向性、と一連の内容がわかってよい。膨大で、読み込むのに時間がかかる。苦手な分野は目を通すだけになりがち。理解できるようにしたい。

【木下温司議員】

今回初めての活用となった。評価シート配布からできるだけ時間を取り内容の把握を行って頂いたが、膨大な事業の中で選択し事業評価を行うことは大変な作業だったと思います。事業の進捗と成果等新しい視点で見られたことは今後のアクションに繋がるものと思われる。ただ、評価の視点が担当者により多少違う面もあり、今後はこうしたことも考慮する必要がある。委員会全体としては質疑が多く出されたと思われませんが、質疑項目は集中していたように感じる。

【昼神二三男議員】

「わかりやすい決算書」（ダイジェスト版）の併用がなくても、「評価シート」の活用で十分である。

【総務産業建設常任委員会について】

【下岡幸文議長】

31年度予算編成に向けての提案について、各議員からの提案が大事。今回は各議員が検討する時間が不足だったと思う。研修会に近い会議になったし、予算決算委員会と同じような質問もあった。

【小池豊副議長】

付託審議のなかったが、学習する機会になり、次回に繋がるし良かった。

【下平貢議員】

やり方としては良かったと考えるが、委員会として提言に繋げられなかったことは残念である。いくつかの事業抽出について事前に配布してあったにもかかわらず、終始質疑のみとなり、単に研修会の様になったことは今後の課題である。やはり、内容くらいは事前に調査をし、提案できることは提案するようにしたい。また、次回からは、委員個人からも事業抽出願いたい。一人1個の事業を取り上げるだけでも6個の事業の審議に繋がると思う。

【後藤澄壽議員】

議論を聞いていて、今後「どのようにして喬木村の産業振興をはかるか」ということがメインテーマになると感じた。

【束原靖雄議員】

付託議案が無く、事務評価シートより問題と思う事業の検討が出来、多くの事業が審議出来て良かった。

【後藤章人議員】

本定例会には、村からの付託議案が無く両委員会とも、委員会の反省、今後の課題、提言等話し合うよい機会ではなかったか。社文の委員会を傍聴したが総務と同じく委員長一人に多くを任せてしまっている感がある。役を持たない議員の考え方を知りたいと思う。(自分自身も大いに反省している)

【櫻井登議員】

①公共交通バス運行の検討 ②消防団組織の再編成対策③多面的機能交付金事業、中山間地等直接支払い交付金事業の3点は特に重要と考え、委員会の検討を望みます。

【昼神二三男議員】

第2回定例会の総括内容を意識した雰囲気が見受けられた。討論が熱中してくると着席のままでの発言もあった。

【社会文教常任委員会について】

【下岡幸文議長】

会議の内容については事前に参加者全員が会議の進め方と会議の目的を共有する必要がある。

【佐藤文彦議員】

当初聞いていた委員会の審議内容が変わってしまい、事前の準備で審議には対応できたが、提言は1つに留まってしまった。今思えば、提言すべき課題がまだあったと感じる。次回に継続したい。

今回提言する課題の他にも継続して検討していく課題もある。月1回の委員会で検討が進められるか不安がある。

【中森高茂議員】

進行内容の理解不足があり委員長として反省点が多い

【櫻井登議員】

次年度予算を前提とした内容では、取り上げた案件は考慮願う。

【福澤真理子議員】

保育所のあり方検討について、幼保小中一貫教育について本当に必要で望まれていることなのか疑問がある。専門家ではないが、『教育』について学習の機会がほしい。様々な側面の意見がある。

保育士の正規職員を増やすことに賛成。提言することになってよかった。保護者からの意見も聴いている。

【木下温司議員】

今回は付託審査がなかったため、29年度決算から31年度予算へつながるような政策提言ができればと、いくつかの事業を抽出して行ったが、まだ完全とはいかない。今後こうした機会を通じ、教育行政、福祉行政に関した提言に繋がる委員会の運営に努めていきたい。

■休日・夜間議会の検証について【検証事項】

議員に対するアンケート調査を活用し、議員が様々な制約を受ける中で活動していること。1年間活動してきた経験から「議会としての役割を果たせたのか」「議会の役割を少しでも住民に伝えることが出来たのか」「喬木村議会のあり方はどうあるべきか」「住民と議会の距離は縮まったか」「なり手不足解消策を考え行動しているか」など質問以外の意見もお寄せいただければと考えます。

アンケートは集約して議会モニター・職員・住民に広く公表してご意見を伺いたいと考えます。議会報告会に間に合えばとも考えていますので時間に限りはありますが、今月末までに提出願います。

【検証すべき事項】

【下岡幸文議長】

○活発な討論があり、中身の濃い充実した会議が出来たか。以前のようなただらとした進行で雑談的で結論が出ない会議でなく、議員個人の考え方が簡潔で解りやすい言葉で他の議員や職員、傍聴者に伝わり、十分に論議を尽くし、会議の意義や目的が達成されることが理想。そんな会議が出来つつあるか。

○常日頃、住民の皆さんと議員個人のコミュニケーションが取れ、課題の共有や課題解決の会話が出来ているか。行政や議会の情報などきちんと住民に説明できているのか。会期中・閉会中に関わらず、住民の皆さんから情報を収集し、課題に対し調査・研究し、課題解決のために住民の皆さんとの意見交換や各議員に対して連絡・協議が出来ているか。住民に対し説明できているのか。まだまだ、不十分と感じる。ただ数人の議員が議員執務室を使い、報告・連絡・相談を行い始めている。

○議員個人として、常に研究テーマを持ち、年間を通じて調査・研究を行っているか。積極的に知識や情報を勉強しているか。常任委員会と同様に年間を通じた調査・研究テーマを議員個人が持つことが大切だと思う。又、自分の得意分野だけでなく、不得意分野の知識の理解、習得も大事。その

習慣が出来ているか。

○専門的議員も兼業議員も議員である以上は議会ファースト。議員活動と地区行事や会社勤務などが重なって課題がある場合、他の議員や議会に相談し、支障なく議員活動ができていますか。

【下平貢議員】

○2時間という審議時間において十分審議をつくことが出来たか。
夜間2時間で十分な審議が出来ないのではという意見から。

○委員会の審議項目と、またその内容が政策に生かされているか。
より踏み込んだ審議に繋げていくことが住民福祉に繋がっていくという観点から。

○委員会審議に向けて十分な準備がなされたか。
調査、研究を十分行うことが出来たか。

○議会だよりが所期の目的を有効的に果たされているか。
読んでもらえる誌面であったり、理解してもらいやすい内容となっているか。(議会を理解してもらえる唯一の広報誌)

【小池豊副議長】

地区で議員としてすべきこと、実行してほしいことは何でしょうか。地域の皆さんそして地元の区との間(はざま)で、思い悩むことがあります。

【後藤澄壽議員】

○「夜間・休日議会」について、村民の理解はすすんだか。

○「夜間・休日議会」は、なり手不足解消策になり得るか。

【佐藤文彦議員】

○休日夜間議会【以下コメント】

当初の報道に戸惑いもありましたが、自分の覚悟を決めるには良いきっかけとなりました。1年間務めてみて、議会がこれほどまで忙しく、また仕事量も多いということを予想しておらず、正直困惑しました。しかし、今の議会が本来の姿であるならば、兼業議員として休日夜間議会への取り組みは改革の一步目に過ぎず、全体を通じた改革がまだまだ必要と感じる。

夜間休日議会への取り組みは、行政職員の方々の協力なくしては成り立っておらず、その協力を感謝すると共に、そこに甘えることなく、引き続き休日夜間議会を含めた改革に取り組むことで、職員の協力に応じていき

たいと思いますし、それにより更に議会の質を高め、内容を充実させて行くことが住民福祉にも繋がり、興味・関心を持たれる議会への道なのだと感じます。

○議会としての役割【以下コメント】

議会の役割とは、住民を代表する者として、地域のことや住民福祉の向上に努めることがその主であると考えます。その方法の1つとして議決権があります。最近、議会は首長の追認機関だと言われる事もあるようですが、村長の提案する案件が妥当であれば、可決し速やかに執行されることは、なんら問題は無く重要な議決であると考えます。そう言う意味では、最低限役割は果たせたと感じます。

今後も審査の制度を上げることは議会としても必要ですし、それにより執行機関と議会が緊張関係を保ちながら協力して自治体運営を行っていく事が役割であると考えています。

今定例会での決算では、初めて「事務事業評価シート」を活用し、決算の審議を行ったことにより、金額だけでなく、事業の内容や成果、方向性などにも注目し審査することができました。その中から抽出された、いくつかの事業については、来年度予算編成に向けての提言に繋げる事ができたことは成果であると感じます。ここから政策立案に繋げて行くことも議会の役割の1つであると考えます。

○住民に伝える事が出来たか【以下コメント】

個人としては、自身の後援会や未来塾において、議会の内容や村政の現状、課題についてお伝えし、興味・関心を持って頂ける機会は作れたと思います。ただ、まだ限られた方のみになっていますので、少しずつ輪を広げていけるよう今後も地道に続けていきます。

議会としては、まだ議会目線での伝え方になっていると感じます。住民の方々が求めている事や知りたい事を、住民の立場になって考えてみると、今の伝え方も内容も、興味を持って頂けるものでは無いと感じます。議会だよりも、報告会も今までのやり方を一回白紙にして、新たな形にするべきだと感じます。

○喬木村議会のあり方【以下コメント】

今までの議会のあり方が、現在、住民から興味・関心を持たれなくなった議会を作り上げたのだとすれば、そのあり方は間違いだったと気づき改善に取り組む事が、今の喬木村議会のあり方だと思います。

やり方はいくらでも有り、重要なのは議会の慣習ではなく、住民の求めに応える柔軟で臨機応変な体制で在ることだと考えます。それが議会のあり方であると思っています。

総務省のあり方研究会から出された地方議会の今後のあり方で「集中専

門型」と「多数参画型」がありますが、どちらも議会の機能や役割を果たすと言う意味では十分では無いと感じます。喬木村議会はこれからも、休日夜間議会を続ける中で、更に進化させた「喬木モデル」の構築を目指すべきと考えます。

○住民と議会の距離【以下コメント】

まだまだ距離が有るように感じますが、休日夜間議会への取組みにより、一部分では縮まった所も感じます。ただ、それは議会モニターの皆さんのお陰であり、議会としての取組みでの成果はあまり感じません。

○なり手不足解消【以下コメント】

休日夜間議会の取組みは、なり手不足解消の為の直接的な方法ではなく、兼業議員が活動しやすい環境作りの一つの方法であると考えていますし、他にも検討、改善しなければならないことは沢山あると感じています。

なり手不足の根本は、議会への無関心であると思います。

関心を持って頂けるような住民目線での発信の工夫や、住民を巻き込めるような活動が必要で、その改善が進まないのは、議員それぞれの危機感がまだまだ薄いからです。なり手不足が深刻であるように口では言うものの、それを本気で考えている議員は少ないと感じます。

議員個人としては、引き続き月 1 回の議会報告会を行いながら、議会目線ではなく、住民目線の言葉で伝えていくことを心がけ、先ずは興味、関心を持って頂き、村政や議会を感じていただける機会を増やしていきたいと考えています。あと 3 年しかありません。

○休日夜間議会とは言え、まだまだ昼間の対応の方が多い。

⇒ 昼間の議会会議（終日）	29 回	
⇒ 〃（半日）	19 回	
⇒ 昼間の行事（来賓等）	22 回	昼計 70 回
⇒ 夜間の議会会議	32 回	
⇒ 夜間の行事	4 回	
⇒ 夜間の議員派遣会議	6 回	夜計 42 回

○調査研究や議会提出書類作成の時間は含まない。しかし、実はこの時間の確保が一番苦勞する。

平議員なのでこの程度ですが、正副議長・委員長ともなれば、この倍近く出られている。正直、現時点で私の仕事環境では、役に就くことは遠慮したいと思ってしまう。

休日夜間議会を更に充実させていかなければ、現在の環境で現役の会社

員が務めるには、よほど会社の理解が無ければ厳しく感じる。

【後藤章人議員】

○前文にいくつか項目が挙げられているが、それに対する具体的行動は頭の中に浮かんでいる。しかし実際には住民の方と接する時間が無く、距離が縮まるどころか、なり手不足解消策の実践とはほぼ無縁であった。夜間会議で限られた時間の中濃密な会議を行う為、様々な試みを実行してきたが最も大切な住民の皆様と接する機会はほとんど取れなかった。効率を上げるための手段を精査し、時間の余裕が持てるよう考える必要がある。住民とのコミュニケーションが不十分な為、議員（私）の働く姿だけを見てそれのみの判断で「自分には重すぎる、できないと思う」という若者がいた事も事実であり、自分の力不足、責任を感じる。職業を別に持っている議員にとって夜間議会は、議会と仕事を両立させる上では有難いが、議会の効率を上げる為の仕事が多く、決して楽に両立できるものでは無いと感じた。身体的な負担は増えたと感じた。昔に比べ職業の種類が増え、働き方も大きく変わってきている。必ず9時から17時まで仕事で、週末は休みという形はもう存在しないと言っても過言では無い。特にサービス業の人にとっては今までの働き方の常識は通用しない。そんな中で議員が働きやすく、また一般の方々が傍聴しやすく村政に関心を持ってもらうというような誰に対しても都合よく便利な制度を作るのは不可能と思われるが、理想の形と思われる物の一つの方法として夜間休日議회를引き続き開催し改良点を見つけていく事が大切かと思う。

議員に対する事務局からのアンケート調査をきちんと提出し活用に結び付けるようにしないといけないと反省している。

【東原靖雄議員】【感想】

○休日夜間議会を1年間行ってきたが何らの抵抗なく出来たので今後も継続したい。

○一般質問で一週間先にしたことで、質問内容を早く取り込む事が出来た・

○今後の議会改革、ICT議会、通年議会の研究など進めて行くうえで他町村議会の視察来村は減少しても良いのではないかと思う。

○各地区の議会報告会の参加人数が少ない傾向で議会報告が一部に偏っているのではないか思い、一人でも多く参加される様検討すべきである。

【櫻井登議員】

○取り組みの方向性； 執行部ともども、同一方向の取り組みの結果であ

り、スタート点での見解の一致があったからできたことと思う。
細部にわたり「問題点の抽出と精査」が今後への影響になると思う。

○曜日や時間帯； 物理的には「休日・夜間議会はできた」ので、「委員会開催の時間帯や、一般質問の曜日設定など、継続することは可能」と考えられる。しかし、他の諸条件等を考慮すると、100%賛成にはならない。
(現在での手段としてはいいが、先の長い将来を考え抜いた議会のあるべき姿を考える必要があると思う。)

○目に見えた成果； 兼業議員の活動のしやすさ、傍聴者の参加しやすさ、役場職員の傍聴参加のしやすさなどは、一定の成果はあったと感じる。

○なり手不足解消； 一つの手段から結びつけは困難。多角的、長期的に考える課題。議員職としての職業感、その環境整備、報酬体制など、住民の積極的な方の発掘育成に困難ではあるが、議員の努力が必要と思う。

○議会のあるべき姿； 議員職として成り立つ様々な要件を満たさないと根本的な解決にはならない。時間をかけて、将来目標に達するまでの構築をどうすべきか。検討課題は大きい。

【福澤眞理子議員】

○後継者づくりの経験交流（自分はまだできていないため）
改選時は選挙になる、という自治体の経験を聴く（視察も含め）
特に女性議員が多い議会について聴いてみたい

○喬木村の住みやすさの数字上の満足度は高いが、課題はどうか。
村政、議会に対する女性の意識・男性の意識
村政懇談会でも、議会報告会でも、村や区が主催する学習会等へも女性の参加はとても少ない。時間的な問題なのか、意識の問題なのか。
団体ではないが、膝を交えるような格好で、懇談会などの取組はどうか。
これでも出席がないか？

○読んでもらえる議会だよりも。
工夫はするが、盛り込む内容が決まってしまうので、難しい。モニターの評価は様々である

【木下温司議員】

○（村民からの意見）として、夜間議会は時間が短く、十分な審議が可能なのかと言う声、また、仕事で疲れていて集中できるのかと言う声が依然多い。兼業議員、自営議員と合わせ検証し村民への十分な説明が必要。

○（村民からの意見）として、傍聴者の拡大を図るため、一般質問は土・日で開催しているが、働き方の多様化で、土・日が休みとは限らない。土・日でなくても良いのではとの意見もある。

○議会改革においてこれが最適な運営方法だということはない。村民・行政・議員・職員のこの一年間の運営方法や、経費等、意見を聞きながら検証し、次のサイクルに繋げていきたい。

○この1年議会の運営については、大きく変化してきていると思われる、ただ、政策提言についても、議会BCP（業務継続計画）についても本格稼働はしておらず、今後の対応が急がれる。

【昼神二三男議員】

○傍聴者の変化

議会を理解してもらおう一つ的手段でもあるため、長期的な検証が必要（一過性の増加に満足してはいけない）

○対応する職員の繁忙感の把握

議員のみならず、職員の繁忙感、住民サービスへの影響等についての検証も必要